

科目ナンバリング		U-LAS04 20001 LJ45									
授業科目名 <英訳>	偏見・差別・人権 Prejudice, Discrimination, and Human Rights					担当者所属 職名・氏名	国際高等教育院 特定教授 廣野 由美子 非常勤講師 豊福 誠二 非常勤講師 加藤 寿宏 非常勤講師 牧野 雅子 非常勤講師 榎井 縁 京都大学 未定 非常勤講師 深澤 吉隆				
	群	人文・社会科学科目群			分野(分類)		教育・心理・社会(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)				
開講年度・開講期	2026・前期		曜時限	月5		配当学年	全回生	対象学生	全学向		
【授業の概要・目的】											
人間社会における偏見と差別に関わる諸問題を人権の観点から学問的に解明し、教授することは、大学として果たすべき重要な基本課題であるとの認識に立ち、本学学生に人権問題に関する概論を教授するため、全学共通科目「偏見・差別・人権」を開講する。											
【到達目標】											
講義を通じて社会における偏見と差別についての認識を深めると同時に、人権問題を自ら考える機会とする。											
【授業計画と内容】											
以下の5つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマに関する講義を行う。											
<p>豊福誠二 現代社会における人権の問題(第1回、第2回)</p> <p>本講座では、まず、弁護士である講師が「人権とは何であるか」について概説をする。その上で、近時みられる「ヘイト・スピーチ」の現状を紹介し、なぜこのような現象が発生するのか、どのような被害があるのか、法的規制はどうあるべきかについて考える。</p> <p>榎井縁 外国人に関する問題(第3回～第5回)</p> <p>日本における外国人とは日本国籍を持たないことを意味し、憲法が規定する国民に相当しない=国の構成要員ではない人びとのことを指していると考えられる。2019年4月に改定された入管法は外国人受け入れへ大きく転換したといわれるが「外国人材の受け入れ」であり移民とは異なることが為政者によって強調された。本講義においては日本における外国人の扱いに関する歴史の変遷を確認するとともに、外国人をめぐる制度(構造的差別)から生まれる諸課題について、日本の「多文化共生」を批判的に捉えることにより明らかにしていきたい。</p> <p>深澤吉隆 被差別部落に関する問題(第6回～第8回)</p> <p>部落差別は、同一の文化を有する人びとのなかで、些細な差異を拡大(あるいは差異を捏造)することで形成された、世界的にも稀な差別だといわれる。こうした差別の成立過程、自由・平等などの理念を基調とする現代社会になお残存している理由、問題解決の道筋について、歴史や現状のなかに分け入ることで探していきたい。</p> <p>加藤寿宏 障害(disability)に関する問題(第9回～第11回)</p> <p>地域の学校に在籍する児童・生徒のうち発達障害(自閉症スペクトラム障害、限局性学習障害、注意欠如・多動性障害)の可能性のある者は、8.8%(文部科学省2022)といわれている。しかし、発達障害と定型発達との境界は明確ではなく、スペクトラム(連続帯)であることから、診断が</p>											
偏見・差別・人権(2)へ続く											

偏見・差別・人権(2)

かない者も含めると、その割合はかなり多く、発達障害はもっとも身近な障害であると言える。また、発達障害者の中には、優れた能力がある者も多く、大学や職場で出会う機会も多い。しかし、発達障害は目に見えない障害であるため、偏見・差別が生まれやすい。本講義では視聴覚教材等も活用し発達障害についての理解を深める。

牧野雅子 ジェンダーに関する問題（第12回～第14回）

男/女に二分する思考やそれに基づく異性愛は、「当たり前」なことだとみなされて、日常生活から法、制度に至るまでわたしたちの社会に根付き、しばしば差別を正当化している。しかし、こうした性差に関する既成概念は、歴史的、社会的に形成されたものであり、決して「自然」なものではない。本講座では、ジェンダーに基づく暴力を中心に、近年の性差別問題を取り上げて、ジェンダーに関する差別や偏見について考える。

《期末試験》

フィードバック

授業回数はフィードバックを含め全15回とする。

コーディネーター： 廣野由美子 国際高等教育院特定教授

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

毎回の小レポートと定期試験で成績評価を行う（小レポート40点、定期試験60点）。
なお、授業に8回以上出席して、それらの出席した授業のそれぞれについて合計8つ以上の小レポートを提出すること（授業に出席して、かつ、その授業で課された小レポートを提出する。このことが、8回以上行われていること）を定期試験の受験資格とする。
状況によって定期試験をレポート試験に代えることがある。

[教科書]

使用しない

毎回の授業資料を当日朝までにLMSに掲載する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義内容の復習を行うこと。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]